

NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

ORMZ ニュース第83号 (H30.6.17)

事務局：宮崎市生目台西 4-7-7 (メール info@ormz.or.jp) 文責：日高良雄



はじめに

6月、梅雨の季節ですね。雨の中でアジサイがその存在感をあちらこちらで誇示しているなあと感じています。

宮崎県内限定でしたが、5月30日、午後3時55分から約1時間「道なき道の彼方へ〜へき地を診る医師〜」と題したドキュメンタリー番組が放送されました。ご覧いただいた方々から「感動した」「素晴らしい活動ですね」「人間味のある先生ですね」との反応と共に、ご寄附もいただきました。紙面をお借りしてお礼申し上げます。

今回の ORMZ ニュースは、山元香代子先生からの現地活動報告と巡回診療に参加した小児外科医の矢田先生からの報告です。どうぞご覧ください。

現地活動報告 (山元香代子先生から)

みなさま いかがお過ごしでしょうか。日本はもう梅雨入りしたのですね。こちらはいいお天気が続いています。朝晩寒くて、何枚も重ね着をしています。ありがたいことに水道の水圧が改善して、給湯器が使えるようになり、夜はお湯が出るようになりました。うれしくてたまりません。

また、以前活動を手伝っていただいていた櫻井さんが、テレビ撮影の応援としてザンビアに来てくれました。テレビ撮影とその後の事務所の仕事をいろいろとお手伝いいただき、とても助かりました。

5月16日はニャンカンガでの巡回診療。患者数は88名とあまり多くなく、マラリア陽性は84名中6名(7.1%)と減少。しかし、前回の診療からコミュニティヘルスワーカーが316名の患者を治療していました。徳島大学の小児外科の先生が同行され、お手伝いしていただきました。ありがとうございました。

ムワプラヘルスポストのスタッフが予防接種を実施。プロジェクトのランドクルーザーがオイル漏れで使えず、レンタカーを借りました。

5月23日はルアノでの巡回診療。患者数は57名と少なく、マラリア陽性は53名中3名(5.7%)で増加傾向はなく、殺虫剤噴霧の効果を感じました。

6月6日はサンダラでの巡回診療。ランドクルーザーのディーゼルインジェクターの調子が悪く、途中何度も止まらなくてははいけませんでした。何度もあきらめかけ、一度は引き返したのですが、数時間歩いてくる患者のことを考えるとやはりあきらめることはできず、サンダラに着いたのは14時でした。18時過ぎまで懐中電灯の明かりで診療し、患者数は58名と少なく、マラリア陽性は56名中20名(35.7%)で減少傾向でした。サンダラから奥のルアノ郡からの患者が多く、どうしたらいいのだろうと考え込んでしまいました。予防接種も実施できまし



川の途中で止まったランクル

た。また、1台レンタカーを借りていましたので、チペンビヘルスセンターの看護師も同乗し、ルアノで予防接種を実施しました。19時にサンダラを出発しましたが、帰りもディーゼルインジェクターの調子が悪く、途中何度も止まり、ルサカに着いたのは翌日の午前1時でした。

4月から5月にかけて、マラリア蚊の殺虫剤噴霧を実施しました。ルアノでは9日間に247家族428戸、ニャンカンガでは4日間に138家族282戸に噴霧を行うことができました。これだけの噴霧を実施できるのは、現地スタッフのがんばりはもちろんですが、多くの方々からの支援のおかげです。ありがとうございます。



サンダラ地区に完成した診療所兼倉庫

しかし、ルアノでは30家族、ニャンカンガでは43家族が留守にしていたり、噴霧自体を拒否されたりと連絡が徹底しておらず、今後の課題です。

12月に事故にあった車は、前回お話ししましたようにギアボックスの調子が悪く、動かなくなりました。再度ギアボックスを交換するにはやはり20万円以上かかるため、このまま売却しようと考えています。しばらくはレンタカーを借り、もう1台のランクルを修理しながら活動していこうと考えています。

私は6月中旬過ぎに帰国し、東京で6月20日、21日に計画されている、内閣官房関係者などとのアフリカでの巡回診療に関する話し合いに参加する予定です。現在、帰国前の申し送りなどで忙しくしています。天候の影響もあると思いますが、マラリアの患者数は明らかに減ってきています。みなさまからの支援のおかげです。心からお礼申し上げます。ありがとうございます。

活動報告 小児外科医から見たモバイルクリニック（矢田圭吾先生）

2018年5月16日、ニャンカンガの巡回診療に同行させていただきました小児外科医の矢田圭吾です。

高校2年の時に、地元の英語塾で出会った「ユニセフ50年の歩み」という英語教材を見て、小児国際医療協力を志してから約20年。ようやく念願叶って、アフリカザンビアの地に足を踏み入れることができた。地元の国際協力団体TICOの一員として、首都ルサカにあるザンビア大学小児外科を訪れたのだ。

ザンビア大学小児外科は、1983年に日本の支援で建設された小児外科専用の手術室で、国内最多の年間2000例の手術を行っている。「ドクター、この建物は、日本が建ててくれたんだよ！見て、このサンヨーの医療用冷蔵庫なんか、35年間ずっと動いてるよ。日本製って本当に素晴らしいね！」何万人もの子供達の命を救ってきた手術室が、日本の支援で作られたと聞くと、本当に誇らしい気持ちになる。

しかしながら、助かる命もあれば、助からない命もあるのが現状だ。ザンビア大学小児外科の救命率は、日本のそれと比べると明らかに低いと言わざるをえない。もちろん、設備・器材・技術的な面が原因であることも否めないが、その患者さんたちの多くは、病院にたどり着くのが遅いのだ。その代表的な疾患の1つに小児腸重積症がある。これは種々の原因により、腸が腸の中にはまり込んで重積する病気で、日本であれば、問診・診察・エコー検査で比較的早期に発見され、高圧浣腸等で、手術をせずに治療できることがほとんどである。しかし、ザンビアでは、病院にたどりつく頃には既に長時間が経過していることが多く、ほぼ100%に手術が必要になる。重積した腸を切除し、口側の腸を人工肛門にする必要があることも多く、時に亡くなることまでもある。

ザンビア大学小児外科の外来で、紹介状を持って長蛇の列をなしている患者さん・親御さんたちは、いかにしてここにたどり着くのか。彼らのために、何か少しでも自分がしてあげられることはないか。その答えの1つが、山元先生のモバイルクリニックに参加することだった。

2018年5月16日、できるだけたくさんの医療資材と薬を積んだ車は、朝6時に首都ルサカを出発した。ニャンカンガまでの5時間の旅程のうち、舗装された道や平坦な砂利道はほんの2時間ほど。その後は、車一台がようやく通れるほどのこぼこ道・くねくね道、小川を渡る、など繰り返して、ようやくニャンカンガにたどりついた。途中、ヒッチハイクを求める村人たちに何度も何度も声をかけられた。茅葺屋根の家に暮らす人々の集落に、車を持っている家庭などほぼ皆無だ。公的な救急車要請のシステムもないし、もしあったとしても、ここまでたどり着けるかどうか。これでは、救急処置・手術が必要な子供がいたとしても、都心部の小児病院にはすぐには来られない、と行きの道すがら実感した。

この日のニャンカンガの外来患者さんは約90人だった。回ってきた処方箋をもとに、コンテナから薬を探して袋に詰める役割や、外来診察も担当させていただいた。

モバイルクリニックには、老若男女問わず、様々な主訴の患者さんが訪れた。長年患ってきた両側下肢静脈瘤による足の痛みを抱えて、はるばる歩いてモバイルクリニックまでやってきた60代女性。性感染症に悩む若い女性。マラリアに罹患した子供。その一人一人が、心の奥深くに刻まれるものだった。

今回の活動を通して、国際医療協力の現場を肌で実感することができた。



以上、決して華々しいとはいえない食料や薬剤の購入・車や人材の準備・事務作業から、実際の診療に至るまでの全てをマネジメントされている山元先生を心から尊敬します。診療後に、チーム全員で撮影したこの写真は、一生の宝物になります。山元先生、本当にありがとうございました！（矢田 圭吾）

賛助会費の納入と寄附受領証明書の送付について

- ・平成30事業年度（事業年度は1月から12月）の賛助会費（個人一口5000円、団体一口10000円、一口以上）及びご寄附（金額は問いません）のご協力をお願いします。
- ・当法人は認定NPO法人であり、ご寄附（賛助会費含む）いただいた際には、翌年の確定申告で税制上の優遇措置を受けるための寄附受領証明書（賛助会費も寄附金と同様税控除の対象）をお届けします。
- ・ご不明の点は日高（info@ormz.or.jp）までご連絡ください。

★郵ちょ銀行からの振替

口座記号 01720-9 口座番号 126351

加入者名 NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

★他の金融機関からの送金

郵ちょ銀行 店名：一七九、預金種目：当座、口座番号：0126351

加入者名 : NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

カナ名称（全角）：トクヒ）ザンビアノヘンチイリョウヲシエンスルカイ

*これからもご支援のほどどうぞよろしくお願い致します